４） 水稲直播機

(1) 用　途

水稲苗の移植の代わりに種子を直接水田に播く（直播）のに使用する。

(2) 構　造

直播の方法には、乾田状態で播種して苗立後に湛水する方式の乾田直播、代かきした田面に播種する湛水直播、及びそのいずれにも属さない折衷直播があり、それぞれに使用する播種機がある。

① 乾田直播機

耕起砕土した畑状態の水田に乾もみを条播する機械　であり、主にロータリー・シーダーが用いられる。ロータリー・シーダーは、ロータリー耕うん装置やロータリー・ハローの後方に播種機又は施肥播種機を付けたものである。繰出装置には、主に溝ロール式が使われ、ロールの駆動には接地輪駆動式とトラクターのバッテリーを電源とする電動式とがある。このほか、播種部分のみ耕起砕土するもの（部分耕播種機）、耕起しないで点播又は条播するもの（不耕起播種）などもある。

② 湛水直播機

湛水又は落水した水田の表面に播種するものと、土壌中に播種するもの（湛水土中直播機）とがある。湛　水土中直播機は、酸素発生剤の過酸化カルシウム剤（カルパー）（乾もみの２～３倍量）催芽もみに湿粉衣（コーティング）した種子を、代かきした湛水田の　田面下 0.5～1.0㎝ の土中に条播又は点播する機械である。田植機のように、湛水田の田面を滑走するフロートやそりを装備し、フロートやそりの下に突起を付けた溝切器がある。繰出装置には溝ロール式や回転目皿式が用いられる。代かきローターと組合わせて代かき同時点播機が多い。

③ 折衷直播

田面を波状にしたり溝を付けたりするのが特徴で、播種機には、乾田直播機又は湛水直播機が使用される。

(3) 取扱い上の留意点

取扱説明書に従って、特に適正な播種機、均一な播種深さが得られるように機械を正しく調整するとともに、種子の予措などの前作業や播種後の管理作業を適正に行うことが大切である。

(4) 安全作業のポイント

① ＰＴＯ軸や可動部のカバーは常に所定の位置に付けておく。

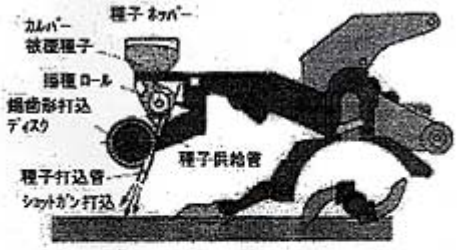
② 点検・調整・修理は、必ずトラクターのエンジンを止めてから行う。

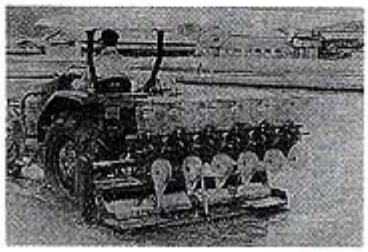
③ 着脱時には作業機との間の挟まれや押し潰されに注意する。

④ 始動、発進、後進時には必ず周囲に人がいないことを確認する。

⑤ 移動時には他車との追突や接触に注意する（予防対策対策として反射材などを活用する）。

⑥ 補助者を含めてＰＴＯ軸や耕うん軸などへの巻込まれに注意する。





点播打込み代かき同時直播機